

カタスレニア

睡眠中のうなり、うめき声

2012年8月

カタスレニアはギリシャ語のカタ＝ようなもの、スレニア＝うめき、すなわち睡眠中にうめき声を発する病気です。これもまた睡眠時随伴症のひとつです。

普通のいびきは吸気時にかきます。往復いびきのひともいますが、呼気時だけのひとはいません。カタスレニアは呼気時だけ、いびきのようなうめき声（唸り声）をあげます。入眠して一時間半から三時間くらいして、2から20秒ほどのうめき声が数十分の間隔で繰り返し起きます。いびきや無呼吸ほど睡眠障害がないため自覚するひとは稀で、ほとんどは家族の訴えで病気の存在を知ります。

この病気の原因はわかっておりませんが、周囲の迷惑以外の害はないと考えられております。しかしながら、てんかん、いびき無呼吸、喉頭喘鳴（多系統萎縮症）、寝言や行動異常（レム睡眠行動障害）と鑑別をしなければなりませんので、睡眠ポリグラフによる確定診断が必要です。

実際に、カタスレニアに睡眠時無呼吸症候群が合併しているひとも多く、まずは睡眠時無呼吸症候群の治療（マウスピース）を行なって、治療状態での睡眠ポリグラフでカタスレニアが消失したかどうか、レム睡眠行動障害が顕在化して来ないかなどを調べておく必要があります。実際に、シーパップやマウスピースだけでカタスレニアが消失する症例報告もあり、このことが、カタスレニアは睡眠呼吸障害の亜型であるという考えの証左になっております。もちろん反論もあり、いまだに決着はついていません。